

第 167 号 内容紹介

1, RL 財団「今こそ外交を ウクライナの平和への嘆願」

ローザ・ルクセンブルク財団主催で 8 月 31 日、ベルリンで開かれた国際平和会議で採択されたアピール。日本共産党の志位議長も参加してスピーチした。

2, C・モックイバー「国連の入植者一植民地ブロック」

「WEOG」ブロックは、人権と国際法を基礎に国連を支配してきたが、ジェノサイドを実行するイスラエル擁護で、入植者一植民地ブロックの素顔を露呈した。国連高官を務めた国際人権弁護士の告発。

3, A・デ・ザヤス「ベネズエラ選挙、誰を、何を信じるべきか」

問題はマドゥーロが勝ったか負けたかではない。危機に瀕しているのは国家主権の原則であり、ベネズエラの自決権だけでなく AALA 地域の国家主権が脅かされている。元国連報告官の国際法学者による警鐘。

4, 小松崎榮「選管発表への抗議は一部野党だけではない」

ベネズエラ大統領選挙を報じた日本 A A L A の機関紙 9 月号の 1 面記事は、マドゥーロ政権の言動を擁護するトーンになっており、受け入れられない。

5, WP 報道「制裁 = 米国は全世界で経済戦争をしかけている」

7 月 25 日付が報じた調査報道。米政府の内部資料をもとに、違法な一方的措置を急拡大させ、戦争に代わる世界支配の手段として採用されている実態と、そのもたらす悪影響をも分析している。

その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます ([aala_news の編集日記 \(livedoor.jp\)](https://aala-news.com/livedoor.jp))

